岡谷市議会　経済建設委員会　行政視察報告書

【総体事項】

１．視察日程：平成２４年１０月１６日（火）～１８日（木）

２．調査事項（視察先）

（１）市役所のまちなか移転と中心市街地のまちづくりについて

（新潟県　長岡市）

（２）企業立地促進法による優遇措置について

（新潟県　燕市）

（３）がんばる農家支援事業について

（新潟県　新潟市）

３．視察参加委員

委 員 長	三　沢　一　友
副委員長	武　井　茂　夫
委　　員	武　居　光　宏
委　　員	久保田　高　正
委　　員	渡　辺　太　郎
委　　員	八　木　敏　郎

【視察地毎の報告】

１．調査事項

市役所のまちなか移転と中心市街地のまちづくりについて

（新潟県　長岡市）

人口：約２８２，９００人　　面積：約８９１ｋ㎡

（視察事項）

市役所のまちなか移転や市街地再開発による都市機能の集積の取り組みなど、土地の高度利用と中心市街地のまちづくりについて視察した。（平成２０年１１月付けで、国から長岡市中心市街地活性化基本計画が認定された。）

２．視察日時　　平成２４年１０月１６日（火）１３：３０～１５：３０

３．参加者所感

○シティホールプラザ「アオーレ長岡」は、長岡駅前の厚生会館の跡地に民間と市の施設が一緒に入る市民交流の拠点施設で、岡谷市のイルフプラザでのシャワー効果を狙った考え方とよく似ていると思った。

○長岡地方は、１ｍ以上の豪雪地帯であり、市役所ばかりでなく、体育館や音楽などのイベントに使えるアリーナと称する大ホールが１か所に集まり、大屋根の下で、雪に閉じこもりがちの市民が多くの人と出会える生活空間を提供する考えが民間の施設の参入を促したものと思う。

○「アオーレ長岡」の東棟は１階に各種証明書の発行、届け出関係等の市役所機能が有り、西棟には議会等の施設があった。近年、行政、議会の見える化が叫ばれているが、この建物にはガラスが多く使用されており、物理的に見える化がされている。また、議場は１階でガラス越しに、通行中の市民から見えるようになっており、話題性がある。

○見える議場には驚きましたが、開かれた議会と言うことから良いのではないかと思われた。

【視察地毎の報告】

１．調査事項

企業立地促進法による優遇措置について　（新潟県　燕市）

人口:約８３，１００人　　面積：１１１ｋ㎡

（視察事項）

企業立地促進法による優遇措置のもとで、地域が特色・強みを生かした「集積業種」を定め、国に同意を受けた場合には、設備投資減税等の特例、支援措置や規制緩和が受けられる。燕市では「機械・金属製造及びその関連産業」を集積産業と定めており、平成２０年３月２５日、国から同意を受けている。これら様々優遇措置を生かした産業活性化について視察した。

２．視察日時　　平成２４年１０月１７日（水）９：３０～１１：３０

３．参加者所感

○基幹産業をなす工業は、江戸時代初期に農村の副業として始められた和釘の製造技術に起因すると言われている。かつては、ステンレス製のナイフ、スプーン、フォークの製造で有名な市である。企業立地促進法における燕市基本計画は、金属加工技術を基盤に、新素材・難加工金属の加工技術の導入及び微細・超微細加工技術の確立を図りながら、独自加工技術を有する域外企業の誘致を進め、高度な金属複合加工集積地の形成を目指し、産・官・支援機関等が連携した人材育成・技術支援、ワンストップサービスの充実とフォローアップを実施するものである。

○岡谷市と同様「ものづくりのまち」である。企業誘致奨励制度、工場等建設資金利子補給制度、企業誘致促進補助制度を三本柱として、様々な優遇措置を生かした産業活性化に努めている。岡谷市とよく似ている。

○燕市は、江戸時代から鉄、銅加工産業の素地があり洋食器の生産を続ける中で後継者の育成が今後の地場産業の育成に欠かせないことであり、そのためには、後継者となる若い子育て世代に対する支援策が大切であるという観点から「子育て世代支援策」を有力手段としている。若い世代が自分の持ち家を燕市に構えたり、市外からの転入者に事業の継承と地場産業を支援し伸ばすための狙いとして、建設業者などと条件を組み合わせて、住宅新築に最高１００万円の補助金を出している。

○市が１つの工場であるかのように、各企業が協力しあい、製造から販売までつながるような産業を進めていた。

○企業誘致についても推進会議の設置、企業誘致フェアの参加、企業誘致アドバイザーによる情報収集等をおこなっている。

○日本政策金融公庫などからの融資制度の活用を行ない、立地計画７件で新潟県の中で９％を確保した。また、事業高度化計画の承認件数は新潟県の中で３５％を確保していることは、燕市の努力の結果と思われます。

○見学した「燕市磨き屋一番館」は金属研磨業に携わる後継者の育成、新規開業者の促進、技術の高度化による産地産業の振興及び体験学習による金属研磨技術の普及を図ることを目的にした施設。当日は大勢の子どもたちが体験学習に来ていた。５年間で終了予定も含めて１７人が地元定着したとのことであるが、後継者養成、雇用促進は根気のいるものであり、想像より厳しい状況が伺えた。

○「燕市産業資料館」は燕市の金属産業の起源、伝統的金属工芸技術を紹介した資料館。和釘、矢立、煙管（きせる）、食器類が時代とともに展示されており、その対象は私たちが日常的に使用している身近な製品と言うこともあり、技術力の凄さなども解り易い施設でした。この点では現在取り組んでいる、岡谷市の蚕糸博物館にも大いに参考にすべき点であろうと思いました。（このことは、視察参加者共通の意見であります）また、岡谷市の担当職員にも研修、見学を勧めたいと思うとの声もありました。

○人口規模も岡谷市とあまり変わらない燕市の視察は、ものづくりのまちづくりという共通点があり大変勉強になりました。

【視察地毎の報告】

１．調査事項

がんばる農家支援事業について　（新潟県　新潟市）

人口：約８０７，９００人　　面積：約７２６ｋ㎡

（視察事項）

経営規模に関わらず意欲を持つ農家に、所得向上に向けた規模拡大や農産物の付加価値向上のための支援施策、園芸作物、農産物販売など、６次産業化に向けた経営の複合化への支援について視察した。

２．視察日時　　平成２４年１０月１８日（木）９：３０～１１：３０

３．参加者所感

○「がんばる農家支援事業補助金」は、意欲ある農業者を支援するために平成２０年度に設けられた制度で、規模拡大、農産物の付加価値向上、経営の複合化による農業所得の向上を目指している。この背景には、平成１９年の国の米政策大転換、米価の急激な下落による打撃を受けた農業者の支援と田園型政令市の実現があります。新潟市は地域のほとんどが平坦な土地であり、海抜０ｍ以下の土地も市域の３分の１あり、水田の大部分が海抜下を占めている関係で半湿田が多い。これが転作の大きな障害となっており豪雨時などに排水機能が間に合わず、冠水などの被害を受けてきた。この経過を基にハード面の基盤整備を重点的に行なった。

○新潟県と言えば有数な稲作を中心とする農業県と思っていましたが、その新潟の県都新潟市での「農業支援事業」となると、日本の農業の困難で深刻な状況をまともに見る思いがしました。農業のことをよく知らず、農作業のひとつもやったことのない自分としては、その深刻な状態を前にして語る言葉もありません。

○新潟市は政令都市になっているが、田園型政令都市を目指していると言う。基幹作物である水稲、ブランド米コシヒカリも外国産や他のブランドにおされているという苦労も伺えた。基幹産業の農業に従事する人たちへの支援施策も多く実施され、作付け面積、従事者の減少もある程度防げているようであった。岡谷市においても農業従事者に対しての支援は設けられてはいるが、地産地消、後継者育成などのため、より一層の拡充も必要ではないか。

○平成２０年度より支援事業を行なってきたが、ほぼ要望通り支援実績は推移したが、平成２４年度には初めて予算より要望が上回り、このままでいくと青天井になることから今後の検討課題であるとのことでした。